

パブリックコメントの結果

豊田市環境学習施設基本計画に寄せられたご意見と豊田市の考え方

1. 環境学習施設に関する内容

	提出された意見・提案の要約	市の考え
1	家庭から出るごみ、事業所から出るごみ等、市民一人当たりいくらになるのか示すとよい。市民が節約することにつながる実行しやすい数字を示すことが必要。	見学者にとって分かりやすい具体的な数値で表現することを考えています。ごみを処分することにより発生する二酸化炭素量や処分に係るコストなど、ごみが与える様々な影響について学べる施設とします。コストや環境負荷について、今後どうしていくべきかを一人ひとりが考えるきっかけを提供するような展示を考えています。
2	有害物質の害を見本で見せるとか、有害物質を燃やすと、どのように変化して人間に対して害を与えるのか、展示して欲しい。	有害廃棄物についても、廃棄物の一つとして展示に加えたいと考えています。伝えたいメッセージに対してスペースが限られているため、展示の方法を工夫しつつ、PCBを含む有害廃棄物についても、発生の原因や生活との係わりなどを分かりやすく示したいと考えています。
3	清掃工場内でのごみ処理（焼却）過程を詳しく説明（できれば見学）するコースがあるとよい。処理前のごみを見せるだけでなく、ごみ処理をする上で苦労している点などを市民に具体的に説明して欲しい。	従来の清掃工場見学コースをより充実させ、既存の見学ルートをさらにごみを間近に体験できる施設とします。また、インタープリター（解説者）を介することにより、見学者からより大きな「気づき」を促します。また、実際にごみ処理に携わる職員の声や市民の皆様へのお願い事項などについても、見学コースや展示の中に盛り込んでいきたいと考えています。さらに、「ごみとは何か？」を考えるため、展示室とも連動させたシナリオを検討中です。
4	展示物等に関するアイデア・要望 ・生ごみは資源化が可能であること、またその方法をアピールして欲しい ・市内で集められた資源ごみが実際どこに運ばれて再資源化されるのかを示して欲しい ・環境にやさしい商品の紹介コーナーがあるとよい	いただいた意見については、できるだけ今後の展示計画の中で活かしていきたいと考えています。市民ワークショップで出される内容と合わせて面積配分やストーリーを考え、できるだけ展示の中に盛り込みます。全体のシナリオとの関係やコスト面で、オープン時の展示に盛り込むことが難しいアイデアについては、今後市民の皆さんが自分たちで展示を作っていくときにどうしたら実現できるかを具体的に検討していく材料となりますので、記録していきたいと思えます。
5	学習施設建設についての予算規模、維持管理費が分からない。9億円余の予算はかけ過ぎではないか。せめて1億円くらいが妥当である。	昨年度の基本計画では建設費等の計算を行っていないため、概算の数字です。本年度の実施設設計で正確な数字を算出します。リユース材の利用など、できるだけコスト削減を目指します。現状、光熱費については新清掃工場の発電により賄うなど維持管理に係るランニングコストを極力押さえるとともに、運営に係わる人件費についても、NPOやボランティアの協力を得ながら効率的な運営方法を考えていきます。
6	将来市民の手による施設運営を予定しているようだが、可能なのか。施設運営の中身を示して欲しい。	将来的には、NPO等の市民団体による運営を目指しています。運営計画については市民ワークショップで平成19年4月オープンに向けて議論していただきます。

7	市民が豊田市の環境政策を批判できる材料が展示される施設でなければ意味がない。廃棄物の生産者責任と大量消費の結果を肯定する二大潮流を示した施設とするべき。そうした施設を設置するのであれば、展示の企画運営は、体制批判的市民団体に委託すべきである。	環境問題を私たち自身が真摯に受け止めるとともに、解決するためには、施設を利用する市民自らが、企画や運営に加わる必要があると考えています。また、そのような気運の盛り上がりを期待しています。 展示は、従来型の常設展示ではなく、市民がニーズに合わせて更新していけるようなシステムとします。環境問題に対して常にタイムリーでフレキシブルな対応が可能となるように考えています。
8	言葉は理解できる用語を使って欲しい。「インタープリター」など理解できない。	できるだけ、分かりやすい言葉を使うように心がけます。インタープリター（解説者）については環境分野ではかなり一般的に使われつつある言葉であり、注釈も添えてありますのでご理解ください。

2. 豊田市が目指す環境政策について

	提出された意見・提案の要約	市の考え
1	豊田市が目指す理想の社会とは、特に環境面から見てどんな社会かはっきりしない。また、理想社会実現のために市は、どのような政策に取り組もうとしているかはっきりさせて欲しい。	今回の環境学習施設のテーマからも分かるように、豊田市では循環型社会・エコライフ社会の構築を目指しています。これまでも公共施設での自動販売機撤廃や買物袋持参運動の推進等を進めてきたところですが、環境問題に関心を持つ人を増やし、環境にやさしい行動ができる人を育てることが重要であることから、環境学習施設を活用していきたいと考えています。 市民一人ひとりの具体的な行動に結びつけることを目指した展示シナリオや体験学習プログラムを導入します。

3. パブリックコメントについて

	提出された意見・提案の要約	市の考え
1	パブリックコメントを何のために行うかはっきりしない。今回については、ほとんど成案が出来ていると思うが、どう反映できたか明らかにすべきである。	昨年度の基本計画では、市民ワークショップを踏まえ、考え方（概念）を中心に取組みを行い、そこまでのパブリックコメントを行ったものです。具体的な展示内容や運営方法などは市民ワークショップの手法を使い、市民参画で作り上げていく計画であり、市民の方々からの意見反映は可能と考えています。パブリックコメントの意見やワークショップでの意見はできるだけ反映させたいと考えています。

4. ごみの回収に関する内容

	提出された意見・提案の要約	市の考え・回答
1	豊田市内で発生する産廃量のどのくらいを市内で処理しているか。	基本的には市内の事業所から発生する産業廃棄物量は、年間1千t以上排出する事業所からの発生量しか把握していません。平成14年度の市内の多量排出事業者からの産業廃棄物量は371千tです。また、平成14年度の処分業者の処理実績によると、市内で発生した産業廃棄物量は458千tとなっており、その内訳は中間処理目的が340千t、埋立処分目的が86千t、再生利用目的が30千tという結果が出ています。
2	リサイクルできるものは、市、PTA、自治区で短期にできるだけ回数を増やすと出しやすい。	ご意見のとおりと考えていますので、協力団体に働きかけをします。
3	ごみの回収袋の単価を上げるとごみの量が減るのではありませんか。	ごみの有料化（袋の単価引き上げ）は、ごみ削減の誘導策となりごみ削減に有効であると考えられる一方で、市民負担・不法投棄・不適正処理の増加も懸念されることから、慎重に行う必要があると考えています。現時点ではリサイクルを推進しながら、ごみの減量に取り組みたいと考えています。

5. 新清掃工場に関する内容

	提出された意見・提案の要約	市の考え・回答
1	ごみの排出量から考えれば、焼却処分が一番良い方法である。新清掃工場の設備で、全て燃やせる方向で整備して欲しい。	ごみの排出抑制及び排出されるごみの分別を徹底した上で、分別ごみを処理する施設については、生活環境の保全と公衆衛生の向上の観点から焼却処理する施設、ごみの適正処理（減量化・リサイクル）の観点から資源化処理する施設、焼却処理及び資源化処理ができないごみを埋立処理する施設を計画的に整備していきます。この考え方にに基づき、新清掃工場は、燃やすごみを安全かつ安定的に焼却するとともに、発電等の余熱利用及び環境対策に充分配慮した施設として計画しています。